

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 ・ 最終)

片山中学校区 校番 17 学校名 呉市立荘山田小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	主体的に学ぶ児童の育成	費 思考力・判断力・表現力の育成	<p>昨年度の単元・単元末テストの達成値は、国語84%、算数72.3%であった。今年度1学期の達成値は国語83.3%、算数76.1%であった。昨年度と比べると、国語は昨年度と大きな差異はなかったが、算数は3.8%上がった。昨年度から算数の授業改善の主な取組の1つとして適用問題を10分間取り組むことを継続している。問題に向き合う時間を確保することが、学力の保障へとつながっていると考える。</p> <p>今年度より、SKM(隙間)読書の取組を開始した。また、昨年度と同様、学校司書を活用し、本の貸し出しの時間を各学級設けて、図書室を利用するようになった。取組の成果として、全学年で94%の児童が、1ヶ月に1冊以上本を読むことができていた。低学年の不読率は低いが、高学年になるにつれ、不読率が高いことが課題である。</p> <p>図書室の本が古い物が多く、児童の興味をひくような本が少ないことが原因の一つとして考えられる。また、本が好きではなかったり、文字数の増加で読む気が起きなかったり、本に対しての良いイメージがない児童もいるのではないかと考える。</p>	<p>国語は、昨年度に引き続き、さまざまな文章に触れる機会を意識して取り入れるための読解プリントの取組を続ける。また、全国学力・学習状況調査の改善計画から、言葉の力を付けるプリントを隔週で取り組む。算数もまた、適用問題を10分取り組む時間の確保と、単元テストを行う前に類似問題を解くなど、問題を解く機会を教師が意識して設定していく。</p> <p>児童が興味をひくような読み物の本を多く購入し、図書室や各学級に設置して、読書を促したい。SKM読書は有効だったため、引き続き取り組み、教員の声かけも強化していきたい。また、図書委員による読み聞かせや教員による出張読み聞かせ、図書室の環境整備も行い、図書室に行きたい、本が読みたいという気持ちを高めていきたい。</p>
**	礼儀正しく、ふるさと荘山田を愛する児童の育成	礼儀・規範意識を身に付けた児童の育成 ふるさと荘山田を愛する児童の育成	<p>どの学年も児童の自己評価は高かった。しかし、教員側から見ると、挨拶を返している児童は多くいるが、気持ちのよい挨拶ができる児童や自分から挨拶をする児童はあまり多くなく、学校全体としては十分でないように感じる。挨拶を返せばよいと認識している児童も多くいると思われ、自分から挨拶することの良さや気持ちのよい挨拶をすることの良さを児童が理解して実践していく指導が必要だと思われる。</p> <p>肯定的評価の高い学年もあったが、低い学年もあり、学年によって差があった。学年によって、1学期に総合的な学習の時間や生活科等で地域との関わりがあったかどうか、社会科等の授業で地域社会との関わりを学習したかどうかということ等が関わっていると思われる。教育活動全体を通して、地域や社会の一員であるという意識を児童に身に付けさせていく必要があると思われる。</p>	<p>引き続き生活目標で挨拶や返事に関する項目を設け、定期的に児童に啓発していく。</p> <p>計画委員会による挨拶運動や小中合同挨拶運動を行うなど、校内だけでなく登下校時の挨拶を積極的に促していく。望ましい挨拶をしている児童を校内放送で紹介するなど、児童への肯定的評価を積極的に挙げる。</p> <p>引き続き総合的な学習の時間や生活科等で地域との関わりを積極的に取り入れていく。</p> <p>地域との合同防災訓練や清掃活動等の行事での振り返りを大切に、地域や社会の一員であるという意識を高めていく。</p> <p>地域の方からの声の中で、児童への肯定的評価があった場合は、校内放送等で積極的に紹介し、学校全体での意識を高めていく。</p>
*	心身ともに健康な生活を育み、自分の命は自分で守ろうとする児童の育成	費 自分の命は自分で守ろうとする児童の育成 運動の楽しさや喜びを感じながら、体力を向上させる児童の育成	<p>「自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している」児童が87%、「災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している」児童が76%だった。2つの質問項目の平均は、1~3年生が74%、4~6年生が84%で、下の学年ほど割合が低かった。また、家庭での災害時より、学校での災害時の方が、避難する場所や避難の仕方について理解している児童の方が3%低かった。避難訓練や防災セタの行事、授業等を通して、防災に関心をもつ児童は増えていると感じた。</p> <p>6月の新体力テストの結果、低学年、中高学年とも目標値には到達しなかった。5月下旬に開催した運動会に向けて、体育科の授業で1~4年生は短距離走に、5・6年生はリレーに取り組みしたが、6学年中3学年しか4月当初よりタイムが速くなっていなかった。しかし、1年生は0.4秒と、大幅にタイムが速くなっていた。</p>	<p>地域で起こりやすい災害や、避難場所や避難の仕方を確実に理解させるために、アンケートの答え合わせを各学級で行う。土砂災害時に、どの教室へ避難するか、各学級で掲示しておく。また、これらから実施予定の避難訓練や総合防災訓練等の行事とリンクさせながら、計画的に指導を継続し、その都度、土砂災害対応携帯マニュアルを再確認させる。</p> <p>運動場での体育科の授業の冒頭で、鬼遊び等、楽しく走る時間を確保する。50mを走り切る体験を、タイム計測時以外でもさせる。ダッシュリレーに取り組みやすくするために運動場のポイントを補修する。ダッシュリレーに目標をもって取り組めるように、記録の伸びを示す掲示を各学級で行う。また、休憩時間に行う運動委員会主催の運動ウィークの内容を工夫し、より多くの児童が運動の楽しさや喜びを感じられるようにする。</p>
業務改善	教職員が意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保 長時間勤務の削減	<p>新校務支援システムの導入で、研修や処理作業のため多くの時間を必要としたが、6~7月は、B日程や授業カットを計画的に実施することで時間を確保することができた。</p> <p>毎日の5分会議で生徒指導案件や教職員や児童に周知する指導内容がその日のうちに徹底できたため、問題発生の未然防止となった。</p> <p>学年で仕事を分担したり、進捗状況を日々確認し合うことで、足並みを揃えることができた。</p> <p>目標退校時刻の申告をし、見直しをもって業務を行うことができた職員もいるが、目標退校時刻が午後7時を過ぎる職員が多いため、月45時間を超えてしまった。</p>	<p>会議を精選したり、授業時数や学習内容の進度に応じて授業カットやB日程を計画的に取り入れたりと、放課後に授業準備や成績処理等ができる時間を十分に確保する。</p> <p>5分会議や休憩時間の見守り等、生徒指導に係るトラブルを未然防止する取組を継続する。</p> <p>仕事の偏りがないように、学年や分掌、学校全体で仕事を分担したり、進捗状況を把握し声を掛け合ったりする。</p> <p>目標退校時刻の申告の徹底を図るとともに最終退校時刻を午後7時とし、さらに見直しをもって業務の効率化を図る。</p>